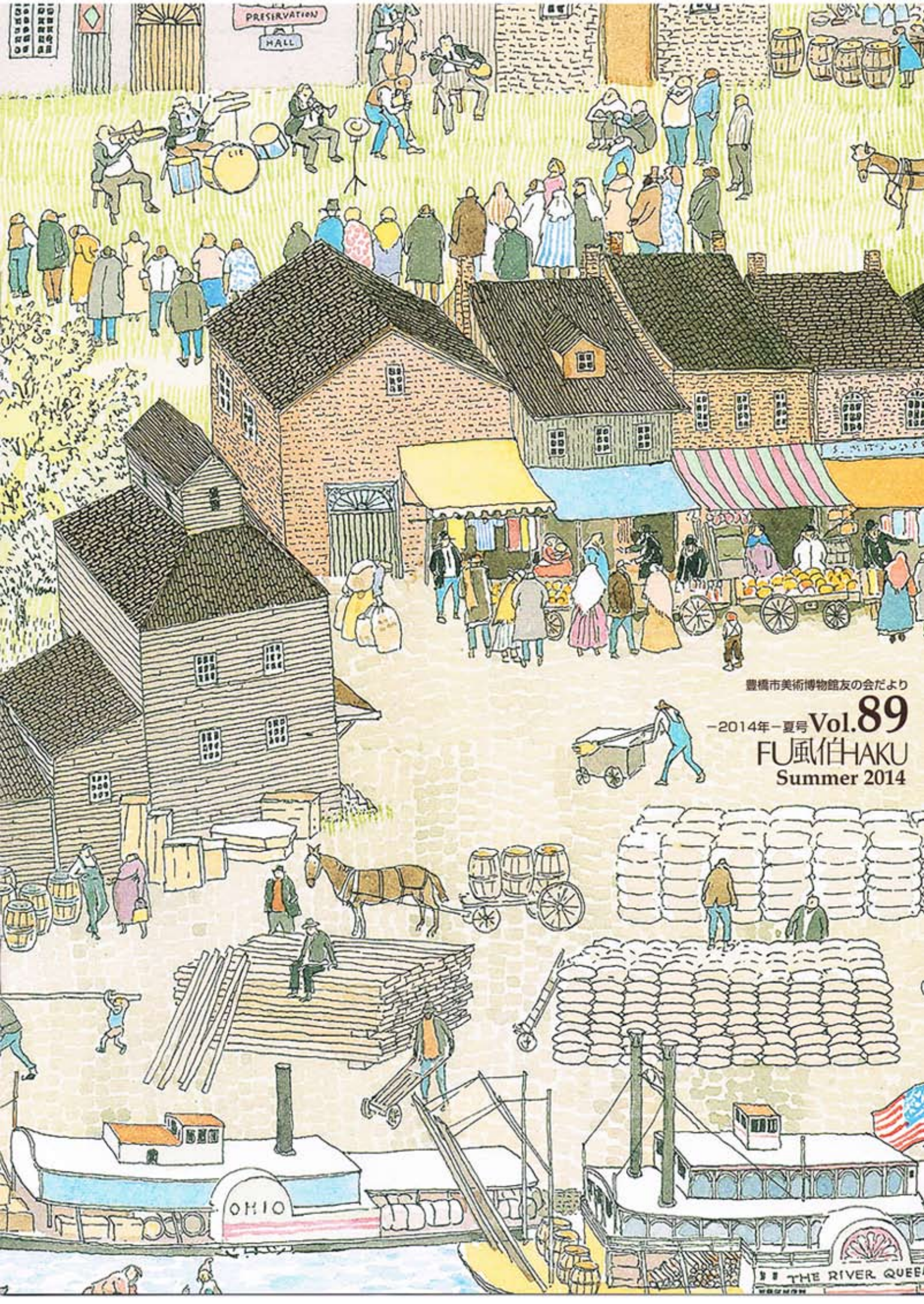

豊橋市美術博物館友の会だより

−2014年−夏号 Vol.89

FU風伯HAKU

Summer 2014

展覧会紹介

豊橋市美術博物館 開館35周年記念

安野光雅「旅の絵本」の世界展

～イタリアの陽ざし、イギリスの村、アメリカの風、スペインの大地…、国々をめぐり、なつかしい故郷へ～

7月12日（土）～8月17日（日） 月曜日休館（※7月21日は開館し、翌22日休館）

主催／豊橋市美術博物館、中日新聞社　企画協力／津和野町立安野光雅美術館

旅の絵本Ⅱ「イタリア編」 名画を探すのも楽しみのひとつです。ここには「最後の晩餐」が…！

1926年、島根県津和野町に生まれた安野光雅は、豊かな知識に裏打ちされた独創的な絵本を生み出してきたことで知られます。1949年に上京し、美術教師をつとめるかたわら本の装丁などを手がけ、1961年に画家として独立。1968年に文章がない絵本「ふしぎなえ」でデビューすると、美術のみならず、科学、数学、文学などへの深い造詣から多彩な作品を次々と発表し、子供から大人まで幅広い層を魅了してきました。代表作である「ふしぎなえ」「さかさま」「ABCの本」「旅の絵本」などは海外でも出版され、国際アンデルセン賞画家賞を受賞するなど、高い評価を得ています。

代表作のひとつ「旅の絵本」は、1977年の中部ヨーロッパ編から始まり、イタリア、イギリス、アメリカ、スペイン、デンマーク、中国と世界各国をめぐる文字のない絵本です。名所・旧跡などがパノラマのように展開する風景のなかに名画や文学、映画の場面、歴史事件やエピソードなど、遊び心ある仕掛けが散りばめられ、見るたびに新たな発見があります。シリーズは2013年の日本編の刊行をもって完結しましたが、これを記念して日本編全23点を含む83点の「旅の絵本」原画を一堂に公開し、ユーモアたっぷりに描かれた絵本の秘密を探ります。

今年の夏は絵本の中へ世界旅行に出かけませんか？

安野光雅（あんの・みつまさ／1926～　）

1926年、島根県津和野町に生まれる。生家は宿屋を営んでいた。1939年、津和野を離れ宇部高等小学校へ転校。1948年より代用教員として徳山市加見小学校（現周南市）に勤め、1950年に上京して玉川学園をはじめ、三鷹や武蔵野の小学校で教鞭をとる。教職のかたわら、本の装丁などを手がけ、1961年に画家として独立。1968年、文章のない絵本「ふしぎなえ」で絵本界にデビューし、数多くの独創性に富んだ作品を発表し続けている。代表作「ふしぎなえ」「さかさま」「ABCの本」「旅の絵本」などは海外でも評価も高く、様々な国で出版されている。科学・数学・文学などにも造詣が深く、「天動説の絵本」「繪本 平家物語」「繪本 三國志」なども手掛け、司馬遼太郎の紀行「街道をゆく」の装画も担当。著作も多く、近年では森鷗外訳「即興詩人」の口語訳を手掛け、「日曜喫茶室」（ラジオ）や「週刊ブックレビュー」（テレビ）に出演するなど幅広い活動を展開している。ブルックリン美術館賞（1973：アメリカ）、ケイト・グリナウェイ賞特別賞（1974：イギリス）、ＢＩＢゴールデンアップル賞（1976：チェコスロバキア）、ボローニャ国際児童図書展（1978）、国際アンデルセン賞画家賞（1984）、紫綬褒章（1988）、第56回菊池寛賞（2008）など国内外の数々の賞が贈られ、2012年には文化功労者となる。2001年3月20日、75歳の誕生日に故郷津和野の駅前に「安野光雅美術館」が開館。

旅の絵本Ⅲ「イギリス編」 ロンドン橋などマザーグースの歌がちりばめられています

旅の絵本Ⅴ「スペイン編」ラ・マンチャで風車といえばあの男…！

旅の絵本Ⅶ「中国編」　水墨画のような世界が展開します

旅の絵本Ⅵ「デンマーク編」　アンデルセン童話の登場人物をみつけましょう

おすすめイベント

◎ギャラリートーク

日時：7月12日(土)　午前11時～
講師：横山真佐子（こどもの広場代表）
会場：美術博物館展示室

◎記念講演会「安野光雅の世界」

日時：7月12日(土)　午後2時～
講師：大矢鞆音（津和野町立安野光雅美術館館長）
進行：廣石　修（津和野町立安野光雅美術館副館長）
会場：美術博物館講義室（聴講無料）

◎「旅の絵本」の国からようこそ

～絵本に描かれた母国・旅人としてみた日本～

日時：7月19日(土)　午後2時～
内容：文字のない「旅の絵本」は世界中に愛読者がいます。アメリカ、スペイン、中国などを母国とする方々が「旅の絵本」をみて楽しくおしゃべりをします。
会場：美術博物館講義室（参加無料）
協力：豊橋市国際交流協会

◎ブックトーク「さあ！旅に出よう！」

日時：7月20日(日)　午後2時～
　　8月9日(土)　午後3時～
話手：豊橋市中央図書館司書
内容：安野光雅「旅の絵本」をはじめ、「旅」をテーマにいろいろな本を楽しく紹介するブックトーク。
対象：小学生以上
会場：美術博物館講義室（参加無料）
協力：豊橋市中央図書館

※上記の他、子供向けワークショップや読み聞かせ会もあります。詳細はチラシあるいはホームページをご覧ください。

ミュージアム・コンサート

友の会イベントです！

◎真夏の夜のジャズ・コンサート

日時：7月26日(土)　午後6時～
　　(開場6時／ナイト・ツアー6時15分～／演奏7時～)
出演：三井盛三ピアノトリオ
内容：旅の絵本Ⅳ「アメリカ編」のニューオリンズではジャズの演奏を楽しむ場面が描かれています(表紙参照)。参加者だけのナイト・ツアー（6時15分より30分程度の学芸員解説）の後、ジャズ発祥の地アメリカに思いをはせて、ナイト・コンサートをお楽しみください。
会場：美術博物館玄関ホール
定員：友の会会員＝40名（一般＝40名 ※要観覧料）
※申込みは美術博物館（0532-51-2882）まで。

◎歌の旅～日本の歌・世界の歌

日時：8月12日(火)　午後3時～
出演：豊橋少年少女合唱団
内容：安野光雅が少年時代に思いをはせて描いた「日本編」を彷彿させる懐かしい童謡をはじめ、世界各国の歌など、歌でめぐる旅をお楽しみください。
会場：美術博物館玄関ホール
定員：椅子席40名（先着順）

旅の絵本Ⅷ「日本編」　最新作の日本編全23点が出品されるのも本展の見どころです。古き良き日本の風景をお楽しみください。

※掲載図版いずれも津和野町立安野光雅美術館蔵　©空想工房

展覧会紹介

お化け浮世絵展

7月19日（土）～8月31日（日）
豊橋市二川宿本陣資料館　月曜日休館（※7月21日は開館し、翌22日休館）

歌川芳藤　五拾三次之内・猫の怪

いつの世も、怖いもの見たさは人間の欲望のひとつです。江戸時代には、文学作品や芝居演劇による怪奇物の題材、演目の流行のもと、浮世絵版画でも妖怪画が人気を博しました。

本展覧会では、歌舞伎の怪談物の定番「小幡小平次」や『東海道四谷怪談』の「お岩さん」、行灯の油をなめる有名な怪猫の話「岡崎の化け猫」など幽霊芝居を描いたものや、『平家物語』に登場する源氏の怨念に悩まされる平清盛、剣聖の名をほしいままにした宮本武蔵の妖怪退治武勇伝などのテーマごとに展示し、北斎や広重、国芳らが腕を競うスリリング、ショッキング、ミステリアスな魑魅魍魎（ちみもうりょう）の世界を紹介します。

展示作品は、中右（なかう）コレクションより江戸時代後期から明治時代にかけての幽霊や妖怪など「お化け」を画題とした迫力満点の浮世絵版画約100点により構成し、夏の暑さを吹き飛ばす奇奇怪怪の世界へと皆様をいざないます。背筋がゾッと……！

歌川芳艶　大江山酒呑退治

■記念講演会「奇想天外！　江戸のおもしろ妖怪たち」

日　時：８月２日（土）午後２時～
内　容：画像をまじえてお化け浮世絵を楽しく解説します
講　師：中右　瑛さん（国際浮世絵学会常任理事）
定　員：50名（申込順）
受講料：無料（入館料必要）
申込み：７月８日（火）午前９時30分から二川宿本陣資料館（0532－41－8580）

葛飾北斎「百物語」笑ひはんにや

■ワークショップ「豊橋妖怪エコバッグをつくろう」

日　時：８月９日（土）午後２時～
内　容：エコバッグに「豊橋妖怪」を描きます
講　師：内浦有美さん（ぱったり堂店主）
対　象：小学生以下の児童と保護者
定　員：20名（申込順）
参加料：500円（展示見学の場合は入館料が別途必要）
申込み：７月８日（火）午前９時30分から二川宿本陣資料館（0532－41－8580）

歌川国芳　相馬の古内裏・滝夜叉姫と大骸骨

歌川豊国「彩入御伽草紙」小平次の亡魂

特別展示　嵩山蛇穴と縄文のはじまり

8月2日（土）～9月28日（日）
豊橋市美術博物館2階　第1展示室
月曜日休館（※9月15日は開館し、翌16日休館）
入場無料

縄文時代がはじまる約13,000～9,000年頃前、洞窟・洞穴・岩陰で生活する人たちが増加します。豊橋市嵩山町にある国指定史跡・嵩山蛇穴（すせじゃあな）もその痕跡の一つです。当時は地球規模の気候の温暖化が進み、植物や動物の生態系が大きく変わります。洞穴遺跡の多くは山間部あるいは山地に近い場所にあり、そこで生活する人たちが増えたということは、当時の人間が環境の変化に合わせて山の森に生活の場を広げていったということを示唆します。そして、この変化は、旧石器時代から縄文時代への大きな歴史的な変化の表れでもあります。

本展示では、国指定史跡・嵩山蛇穴にスポットを当てて、東三河と日本各地における縄文時代がはじまる頃の生活を紹介します。また、近年の研究・調査事例を踏まえて、嵩山蛇穴の再評価を試みます。

■8月10日（日）・24日（日）10：00～、14：00～　学芸員による展示解説を行います。
■9月27日（土）13：00～　豊橋市役所講堂（東館13階）にて、史跡シンポジウム「嵩山蛇穴と縄文のはじまり」を開催します。（聴講無料・事前申込不要）

豊橋の金工展

8月26日（火）～9月28日（日）
豊橋市美術博物館2階　第2・第3展示室
月曜日休館（※9月15日は開館し、翌16日休館）
入場無料

黄金灯籠　江戸時代
宝永4年（1707）　大岩寺蔵　市文

普門寺の銅経筒、東観音寺の馬頭観音御正体（みしょうたい）をはじめ、主に豊橋の寺社に残されている金属工芸品を紹介する展覧会です。それらは、馬越長火塚古墳（まこしながひづかこふん）などの副葬品から、経筒・銅鏡・法具・梵鐘・鰐口、江戸時代に大名家から奉納された品に至るまで、古代・中世・近世を通じて信仰の対象として、またそれを遂げるための道具として長く伝えられてきました。工芸品として美しさを鑑賞していただくとともに、寄進した人々の盛衰や、祈りを捧げた人々に思いをはせていただければ幸いです。

銅経筒　平安時代　久寿3年（1156）
普門寺蔵　重文

金銅馬頭観音御正体　鎌倉時代
文永8年（1271）　東観音寺蔵　重文

金銅独鈷杵（とくこしょ）・金銅三鈷杵（さんこしょ）・銅五鈷杵（ごこしょ）
平安～鎌倉時代　赤岩寺蔵　市文

春の研修旅行記

5月13日（火）・14日（水）の一泊二日で、「古美術評論家青柳恵介先生と行く近江の旅　白洲正子の愛した湖南の仏たち」を開催し、40名の参加がありました。参加者より届いた旅行記を紹介します。

友の会の研修旅行に参加して

高倉一代（13）

この度、古美術評論家の青柳恵介先生と「白洲正子が愛した湖南の仏たち」に会いに近江への旅を主人と伴に参加させていただきました。

明け方までの雨も出発のころには止み、時間が経つにつれ晴れてきて、車内からみる山々の緑が一層美しく目に染みました。

はじめにバスの中で青柳先生からこの旅の基礎知識をうかがうことができました。

最初に訪れた長安寺境内にある石造宝塔の牛塔は、鎌倉時代ということで当時としては大変に大きなもので、大津と京を結ぶ逢坂の地にありました。

次に訪れた石塔寺は、うぐいすのさえずりに出迎えられ元気をもらい、一直線に伸びた石段を百三十段ほど登りました。息切れし登った頂上に奈良時代前期の作とされる三重石塔があり、これがまた大変に大きな三重石塔で日本最古・最大といわれ、その周辺を何万という五輪塔や石仏が置かれ、現在でも新たに供養のため置く人がいるという。ここを訪れたインド人もびっくりと青柳先生から聞いたが納得でした。この景色をみながら美味しい折詰弁当をいただきました。三番目に訪れた廃小菩提寺は、例の織田信長の兵火に焼かれて建物はなく、石仏や多宝塔のみが残っているという状態でした。

石塔寺の三重石塔

初日最後に訪れた善水寺は、湖南三山に数えられ、山を少しバスで登ったところにありました。ここもやはり織田信長の兵火に焼かれたが、本堂と門のみが焼かれず残されたので本堂が国宝になっているとのこと。住職の説明をいただいたが、本堂の木造薬師如来坐像や梵天・帝釈天・四天王立像などいずれも天平から平安時代を代表する素晴らしい立派なものでした。なおこの寺に涌く清水を病気の天皇に届けたところ平癒したため、天皇から善水寺の名号を賜ったため寺名になったとのことでした。

白洲正子が繰り返し訪れて近江の石仏や石塔、また寺院やお庭の巨石を愛でたのも何となく分かってきました。自然石を使った塔や石仏に神様が宿っている思いがしました。

あまり訪れることができないような派手さはないお寺などを青柳先生とご一緒に旅ができたことは、とても幸せでした。

眼福・口福、至福のたび

滝川一興（3）

乗寿にしてなお、恥ずかしながら夜討ち朝駈けの毎日。ふと手にした風伯に湖東・湖南の古寺巡りの案内が。意を決して西行サンセット７７と観じ、善男善女の皆さんのお仲間に加えていただくこととなった。

古寺巡礼・陰翳礼讃、そして中学の修学旅行など、若かった古き良き時代のあれこれが想起された。案内にあった白洲正子・青柳恵介などのビックネーム。そして決定打は、なんといっても八日市の招福楼であった。

百数十年の歴史を閲すこの名亭を訪れるのは十数年ぶりであった。入口から鬱蒼たる青楓のトンネルを行き、正面の樫の高垣を右折した先に玄関がある。入り口先の老桜も風雪に耐えて貫禄を増し、健在であった。

同行のうち有志のみの参加ではあったが、百畳敷きの広間からは光悦寺垣をあしらった老松白砂青苔の石庭を鑑賞でき、大座敷の床の間には五月とて、鬼やらいの菖蒲と五月人形などが荘られていた。名代の料理には名窯の陶磁器が使われ、板前の腕の冴えを窺わせる、旬の食材を生かした料理が根来の膳上に並び、躾の行き届いた仲居さん達のてきぱきとした、客あしらいと相まって、行く春の湖東の情緒を満喫することができた。

その翌日は、湖東の名刹で観音寺山麓にある、石棺と遠州作庭で有名な教林坊、そして石馬寺を訪れた。石馬寺には、三河にも縁のある役小角の等身大木彫があり、左右に邪鬼を随え端坐している姿が印象的であった。修験道・山伏道の祖といわれている。

最後に千手観音・十一面観音で有名な長命寺へ。湖畔に聳える急峻長命山の山腹に、七堂伽藍のあるため、私は途中までタクシー。しかし頑張って登ったお蔭で、旧制三高ボート部の名曲、琵琶湖周航歌第六番を刻む記念碑が本堂脇にあることを知った。

二日間は文字どおりアッという間に了ってしまった。青柳さんの学問的名解説、宮田会長の諧謔あふれるトーク、岡西ドライバーの上手なドライブ、青木ガイドの名調子・迷演技、須見さんはじめ友の会幹事の皆さんおよび、豊橋美博スタッフの方たちのお心づかい、そして、諸仏をはじめ、聖徳太子のご加護を得て、無事和やかに楽しく大団円。合掌。

西国十番長命寺　汚れの現世遠く去りて
黄金の波にいざ漕がん　語れ乙女子熱き心
（琵琶湖周航歌　第六番）

青柳先生を囲んで～
石馬寺

石馬寺・石階段

友の会ニュース

記念講演会報告

「冨安昌也先生の人と芸術」

５月17日、友の会総会終了後に行われた記念講演会は、冨安昌也先生とそれぞれ親交の深かった、サーラグループ名誉顧問の神野信郎氏と洋画家・朝倉勝治氏に当会の高須博久副会長が聞き手となってすすめられた。会場の講義室の壁面にはサーラグループ、及び個人で所有されている絵画数点が、この時間の為にだけ飾られ、来場者を楽しませた。

両氏は豊中・時習館時代に冨安先生の授業を受けられたが、殆ど絵の指導は受けず、日本の武士道精神や戦後のフロンティアとしての指導が心に残っていると話された。冨安先生は「人間は真・善・美を追求しなければいけない」という信念から豊橋文化協会の活動にも精力的に取り組まれ、同級生で噺家の小島貞二氏を介して約20年間にわたり一流の落語家を呼び、市民寄席を続けられたことなども話された。又、神野氏は先生の時習館同窓会幹事長としての活躍について「やる以上は日本一のものを！」と前々から計画を練り、100周年記念事業に山種美術館から60点もの作品を借りて「日本画の巨匠展」にこぎ着けるなど熱心に活動されたとのこと。それらの話から冨安先生は画家であり、プロデューサーであったことを深く印象付けられた。その傍ら絵は黙々と描いておられ、60代はヨーロッパ、70代、80代はスケッチ旅行とあちらこちらに出かけられ、師の藤島武二に勝るとも劣らない絵を描きたいと話されていたことなどをお聞きすると、愈々先生の精神の強さに感動する。会場には奥様とお嬢様もお見えになり、終始和やかな雰囲気であった。

（河邊満江）

こんにちは　よろしく！
～新入職員紹介～

名　前：朝倉美典（あさくらよしのり）
（美術博物館管理グループ）
趣　味：音楽、映画、美術鑑賞
好きなアーティスト等：マイク・オールドフィールド、クロード・ルルーシュ、古代ギリシャ、エジプトの美術
仕事への抱負：施設管理等、美術博物館を裏方的に支えていければと思います。
友の会へひと言：心で見て、感じて、感動して、多くの素晴らしい作品に出会えますように。

名　前：根木真太郎（ねきしんたろう）
（二川宿本陣資料館嘱託員）
趣　味：絵画・テニス・ゴルフ・釣り・スキー・調理・園芸
好きなアーティスト等：音楽ならJAZZ系、映画なら、やはり黒澤明かな。
仕事への抱負：四季折々に開催される『二川宿本陣まつり』を市民の皆さんが楽しんでいただけるように頑張ります。
友の会へひと言：二川宿本陣資料館、旅籠屋「清明屋」、商家「駒屋」（来年度の秋オープン）を見学して、江戸時代にタイムスリップしてみませんか？

◆お世話になりました
大林美香さん（美術博物館管理グループ→資産税課）
山田美文さん（二川宿本陣資料館嘱託員→退職）

収蔵品紹介

諸国御札ふり出し双六

歌川芳藤●UTAGAWA, Yoshifuji

慶応3年(1867)　木版多色刷　71.7×48.0cm

慶応3年（1867）7月14日に豊橋近郊の牟呂村で伊勢神宮のお札が発見され、3日にわたって臨時の祭礼が行われたことが、「ええじゃないか」の始まりです。このお札降り騒動は年内に東は江戸、西は広島、北は松本まで伝わっていきました。お札降りのあった場所では揃いの衣裳や仮装での乱舞をともなった祭礼が行われ、非日常の世界が作り出されました。

江戸や京都・大坂では、お札降りの様子を描いた浮世絵や降ったお札のリストを載せた瓦版などが数多く出版されましたが、この資料も、「ええじゃないか」騒動を題材にした双六です。大判サイズの錦絵を4枚貼り合わせたもので、慶応3年12月の改印があり、お札降りの情報が子どもの遊びにまで反映されたことを示しています。タイトルの「お札ふり出し」はお札降りと双六の降りだしを掛けた洒落でしょう。

神々が諸神のお札を撒いている上部が「上り」です。その下では、神主や武家をはじめさまざまな人がそれをいただこうとしています。詞書には慶応3年の秋から東海道はじめ諸国で伊勢神宮などのお札が降ったこと、それは吉例豊年の知らせであるので敬うこととあります。牟呂村でも降札を信じなかった人に不幸があったという記録が残されています。

作者の歌川芳藤は、国芳門人で幕末から明治の浮世絵師。横浜絵や明治開化絵、武者絵を描きましたが、とりわけ子ども向きのおもちゃ絵を得意としました。

（豊橋市美術博物館主任学芸員　増山真一郎）

編集後記

もう随分前になりますが、何気なく「豊橋市美術博物館友の会」に入会しました。友の会に対して、そこそこに楽しいだろうという期待はありましたが、「こんなに楽しい会であるとは！」と驚きました。それからずっと、楽しませていただいております。

今、また、久々に驚いています。これも、何気なく、ご縁があって「風伯」の編集委員になりました。この編集委員というのが「こんなに楽しい係であるとは！」なのです。編集委員会は、もちろん、「風伯」の編集のための話し合いや作業をします。その話し合いの最中、話題が四方八方に飛び跳ねまわります。その「飛び跳ねまわり」が、何とも楽しいのです。生きのいい魚のように飛び跳ねまわる話題を、名編集長が鮮やかに料理し、館の風伯担当職員の方が、美しく盛り付けてくださいます。

このようにして、「風伯」ができあがります。「風伯Vol.89」のお味はいかがでしょうか。

（藤本逸子）

【表紙作品】
安野光雅　旅の絵本Ⅳ　「アメリカ編」ニューオリンズ　1983年
津和野町立安野光雅美術館蔵　©空想工房

豊橋市美術博物館 友の会だより「風伯」第89号
編集・発行　豊橋市美術博物館友の会
会　　長　宮田正人
編 集 長　高須博久（副会長）
編集部長　望月志郎
編集委員　鈴木冷子　神野志保子　河澄満江　藤本逸子　清水貴裕
協　　力　豊橋市美術博物館
〒440-0801 豊橋市今橋町3-1　TEL.0532-51-2882
平成26年6月30日発行